

すわみつえ通信

No.344 2025年1月6日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

新年明けましておめでとうございます 本年もどうぞ宜しくお願ひいたします

青空が広がる穏やかなお正月、我が家は3人の子どもたち家族が集まり賑やかに過ごしました。

平和で平穏な暮らしとなるよう全力をつくす決意を申し上げ、新年のご挨拶といたします。

参院選の年 浦和駅東口で伊藤岳参院議員と比例5氏予定候補の訴え！

伊藤岳参院議員（現）は、昨年末に高い学費と重たい奨学金の負担で苦しむ学生と懇談したことを報告しました。補正予算に盛り込まれた8268億円もの軍事費を批判し、「ミサイルの爆買いより、未来ある学生に予算をかけるべきだ」と訴えました。

山下よしき参院議員（現）は、気候変動対策のカギは再生可能エネルギーの飛躍的普及にあることを訴えました。

井上さとし参院議員（現）は、元日に党が運営する「能登半島地震被災者共同支援センター」を訪れ、被災者を追悼し、住民本位の復興のための決意を新たにしたことを訴えました。

はたやま和也元衆院議員（新）は、消費税増税に加え、インボイス導入と物価高騰で業者が苦しめられている現状を話し、「消費税減税、インボイス廃止で暮らし守れの声をあげよう」と訴えました。

白川よう子元香川県議（新）は、活動地域の中国、四国、九州・沖縄地方のどこでも「大軍拡の大波に襲われている」ことを訴えました。

小池晃参院議員（現）は、参院に共産党単独で法案を提出できる現有11議席を守り抜くために、「政治を動かす力を持っている『比例5人のベストチーム』全員の当選と伊藤岳参院議員（埼玉選挙区）の再選」を強く訴えました。



（左から）伊藤岳、井上さとし、はたやま和也、山下よしき、白川よう子、小池晃の各氏の訴え＝1月4日（土）、浦和駅東口



街頭演説前に伊藤岳参院議員に
エールを送りました。
＝1月4日、浦和駅西口ビル内

出初式行われる



1月5日（日）
午前8時より
消防団出初式
が市役所駐車場で行われました。

自治会の皆さんや市民の方が見学しました。市議会議員は初公務です。きびきびした消防団の皆さんから気持ちの引き締めが伝わりました。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

（月）吹上駅南口 （火）北鴻巣駅東口 （水）北鴻巣駅西口 （木）吹上駅北口 （金）鴻巣駅西口

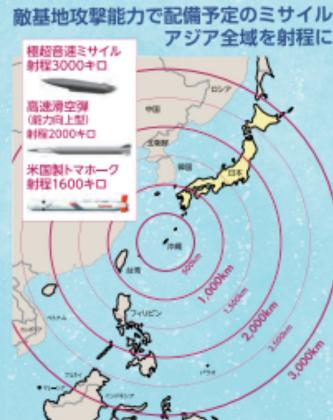
【俳句コーナー】

初仕事ルリコドーナツ孫達に
瑠璃子



財源は増税?借金?

来年度8兆5千億円もの財源をどこから? 増税するか、国の借金をふやしてお金をつくるしかありません。そうじゃなければ、医療や介護をさらに削り込むしか…。すでに教育予算の2倍にも膨らんだ軍事費をふやすより、国民生活の防衛が優先ではないでしょうか。



ホントに防衛になる?

大軍拡で政府がすすめているのは、中国と対決するアメリカいなりに、日本を長距離ミサイル攻撃の最前線基地にすることです。

万が一戦争になれば、まっさきに反撃にあい、日本が焦土と化す危険な道です。

日本共産党

軍拡よりも平和を。
日本共産党は展望があります。



衆院
少
数
与
党
たぢり

願いかなえる チャンス!!



みそぎ

1980年代から続く詩集のシリーズに「のはらうた」がある。その第4巻に印象的な作品を見つけた。2000年秋に出版されているから、翌01年が巳(み)年なのを意識したのかもしれない。題名は「だっぴ」、作者は「へびいちのすけ」。〈「だっぴ」すりや ちょっぴり おとなでぼく しんぴん あたらしい としがはじまる きぶんだよ だから そのときや 「だっぴー・ニュー・イヤー」〉

脱皮は人間にはない現象で興味深い。成長の証しでもある。なるほど、かつて年を取る節目だった新年と重ね合わせると面白い。民俗学者の吉野裕子さんによると、実際、古代日本人は蛇を信仰していたという。特に生まれ変わるかのような脱皮に引かれていたとする。

「揚句(あげく)が神祭の中にこの真似(まね)を取り込んで、ミソギ(身殺=みそぎ)としたと私は推測する」(著者「蛇」)。罪やけがれをはらうため、川や海で身を清めることを「みそぎ」というが、大本は脱皮から来ているというわけだ。

現代はみそぎにもう一つの使われ方がある。政治家の言う「みそぎが済んだ」。不祥事や疑惑があつても、選挙などを経るとけじめがついたかのように扱う。むろん国民は納得しない。

自民党派閥裏金事件もしかりである。昨年、選挙も国会の審査もあったが、真相は見えないまま越年。けじめはついていない。巳年を迎えた。真に生まれ変わるようなみそぎが求められる。

【高知新聞 1月4日付 コラム「小社会」】